

すぐに浮んできたとしても、それは横に置いておき、頭を真つ白いノートにして考えてみる。すると、全く同じ答えにはならない。根本は同じであったとしても、目の前の子どもとつくっていかうとす

ると、新しい形になっていくものである。日々新たな発見を見出している子どもたちから学び、新しい保育へとつなげていきたい。

(駒場幼稚園)

香りがつなぐ新たな出会い

宮崎 薫

梅に、沈丁花……街を歩いていると、どこからか漂ってくる花の香りは、春の訪れを知らせてくれます。その香りを、思いっきり吸い込むと、細胞のす

みずみまで目覚めていくような気持ちになります。子どもたちに向けての「香りの体験学習」に関わり、この春で五年目になります。見る・聴く・嗅

ぐ・触れる・味わうという五感の中で、嗅ぐという嗅覚に着目し、「香りの体験学習」を行なうのは、新しい試みなのかもしれません。

「香りの体験学習」はどんなことをするのだろうか、とほとんどの方は思うことでしょう。一番の目的は、香りにふれて、嗅覚を働かせるということを身体で経験的に感じてもらうことにあります。ハーブや植物から抽出したエッセンシャルオイルを持参して、いろいろな香りを体験してもらいます。そして、石けんやバスソルト、ルームフレグランスなどを作成します。香りから学べる知識は、自然、科学、環境、歴史、文学、身体、健康など多岐にわたっています。それらの知識も、香りにのせて伝えていきます。

香りを通じて、人と自然のふれあい、心や身体と向き合うこと、人との関わりの大切さにも気づいてもらいたいと願っています。

私は、この実践で、多くの子どもたちや先生方と出会いました。その出会いの中で、感じたことや思ったことをいくつか紹介いたします。

◇今を生きる子どもたち

初めて「香り体験学習」を実施した時のことです。感想文を読んで、ある一文に目が留まりました。「香りを嗅いで、荒々しい気持ちが出すうーっとしました。」そう書かれていました。もしかしたら、そんなに意識せず書いたのかもしれませんが、自分の心の内を「荒々しい」と表現した中学生の言葉から、子どもたちも、大人同様、あるいは、それ以上に、混沌としたストレス社会を生きていることを実感しました。

香りによって、リラククスやリフレッシュした



り、心身のバランスを保つことができます。「香り体験学習」で、「気持ちいいな」と思った感覚を大切にしてもらいたいです。そして、「荒々しい」気分になった時、香りを嗅いだ時の記憶を思い出して欲しいです。

ある中学生に「ヒノキの香りを嗅いだことはある？」と質問したことがあります。その問いに対し、「はい、あります。入浴剤で」と、明るい答えが返ってきました。続いて、「ヒノキならテレビで見たことがある」という言葉を聞いた時、今の子どもたちは人工的な世界に暮らしているのだなと思いました。ヒノキは、殺菌作用のある香りを含んでいます。腐りにくく風呂桶等を作る際に利用されてきました。先の言葉を聞いた時、世界有数の森林国で、生活の中に木を取り入れてきた私たちの文化も失われていくように思えました。

「香りの体験学習」では、植物から抽出した天然の

香りを嗅いでもらいます。香りを通じて、植物と人の関わりや、香りのある自然環境を慈しみ残していくことの大切さも伝えていきたいものです。

◇新しいものが生まれる時

高等学校の「総合的な学習の時間」で、「香りの体験学習」を実施したことがあります。担当をされた英語科の先生から、「言葉以外に、何か、生徒とコミュニケーションをとる方法がないかと探していた」という思いを聞きました。その高校は、不登校の生徒が多く、「いい香りがするから、あの教室に行こうかな」と思ってもらえたら」と考えたそうです。日々、言葉の指導をされている先生が、言葉以外のコミュニケーションの手段を探していたことを知り、とても驚きました。先生と生徒の気持ちをつながりにつなぐきっかけに、香りがなれば、こんなにうれしいことはありません。

小学校の図工科の先生と一緒に、「かおりをかたち」という、授業に取り組んだこともあります。

コラボレーションというのでしょうか。香りからイメージしたものを、造形作品で表現するという授業でした。「造形」と「香り」という異なる分野で、ひとつの授業を実践するのは、刺激的ではありませんが、多くの時間とエネルギーを費やしました。終了後、先生はこんな言葉で授業を振り返りました。

「ふたつの色を混ぜ合わせた時、澄んだ美しい、新しい色が生まれる場合もある。濁った色になることもある。お互いが研ぎ澄まされていないと、新しく美しいものは生まれません」と。私は、美術の先生らしい表現だなと思うと同時に、香りのブレンドを思い浮かべながら聞きました。その言葉は、私に深く刻まれ、新たに何かに取り組み時、誰かと向き合う時、いつも思い出すのです。

◇幼児と香り

先日出会った五歳児が、大切そうに差し出した、いちごのキーホルダーは、甘い香りがしました。私たちのまわりは、人工の香りが氾濫しています。自然の香りと出会う前に、おそらく生まれた瞬間から、人工の香りを嗅いでいることでしょう。

三歳までは、香りに対する嗜好はなく、成育環境や食生活で、香りに関する嗜好も形成されていきます。幼児と関わる保育者の方やお母さんは、園庭で、公園で、街で、植物の香りと出会った時、たくさん、お話をして下さい。香りは記憶と関わりが深いと言われています。大人になり、ある香りを嗅いだ瞬間、香りと出会った時の風景が鮮やかによみがえってくることでしょう。私も、香りの記憶の引き出しを、ひとつひとつ増やすお手伝いができたらと思います。そして、また新たな出会いが生まれることとでしよう。

(東京都江戸川区在住)